

企画展がおもしろい ぜひおいでください!

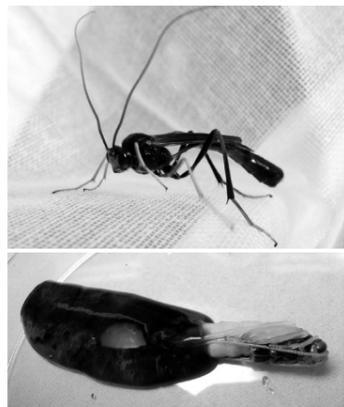
開催中の企画展

パラサイト ～みんな寄生されているかも?～

10月1日(火)～12月1日(日)

パラサイト＝「寄生」というと、ほとんどの人がイヤなイメージを持っているでしょう。何か悪いことをしている、ひきょうな生き方と思われる方も多いでしょう。

しかし、相手を食べて栄養をもらうという点では、ライオンがシマウマを殺して食べることに、同じ意味を持ちます。むしろ、生きのまま栄養をもらうので、冷蔵庫のない自然界では、新鮮な栄養をもらうのに適した方法です。その証拠にハチやハエ、ダニ、センチュウ、サナダムシなどの動物



や、ツチトリモチやヤドリギ、スナヅルなどの植物まで、多くの生きものがそれぞれ別々に寄生という生き方を選んできました。自然界で成功する方法として、ヒメバチのサナギがポピュラーなものなのです。今回の企画展ではそのような寄生という生き方のもつ不思議と驚きを紹介します。

寄生は楽な生き方と思う人もいますが、苦勞もあるのです。相手の身体の外側に食らいついたならば、振り落とされないようにしっかりとくっつく工夫が必要です。身体の中に入れば楽なように感じますが、白血球などの防衛機能と戦わなければなりません。

ある種類の寄生者は、寄生した相手(宿主)を自分に都合良く操作することが知られています。例えば、ハラビロカマキリは普段花などに隠れてえものを待ちかまえる生き方をし

ていますが、センチュウの仲間であるハリガネムシに寄生されると、あちこちを歩き回るように操られます。ハリガネムシはカマキリから出ると水中でしか生きていけません。そこでカマキリを歩かせることで、水辺にたどり着く確率を増やしていると思われま

す。寄生される側も対抗できる場合があります。リュウキュウアサギマダラという蝶の幼虫は、寄生者であるヤドリバエの幼虫をからだの中で殺し、何事もなかったように羽化して交尾・産卵できます。



地球が生まれて約46億年、生命が生まれてから約38億年とも言われています。その長い進化の歴史の中で、子孫を残すという意味で成功してきた寄生者たちの生き方を、いろいろと見てみましょう。

これからの企画展

かごしまの自然の宝 固有種

12月21日(土)～3月2日(日)

固有種って聞いたことがありますか。これは限られた地域だけにすんでいる生き物を指します。鹿児島には多くの島々がありますが、この島に取り残され、独自の進化を遂げたものはその代表格といえます。

例えばアマミノクロウサギは、奄美大島と徳之島だけにすむ固有種です。

近年これらの固有種は、すんでいる場所の環



アマミノクロウサギ

境悪化や外来生物による影響などにより、その減少が懸念されています。このような固有種をとおして、鹿児島の自然を考える機会にしませんか。

「桜島について学ぼう!」～大正噴火100年に向けて…まだまだ桜島が熱い!

8月18日、桜島の昭和火口が、観測史上最高となる噴煙の高さが5000mにも達する噴火をしました。噴石が3合目まで、火砕流が約1km降下するなど爆発的な噴火で、全国的なニュースにもなりました。今年もすでに爆発回数600回を越え、活発的な活動が続いています。

さて、桜島は、2014(平成26)年1月12日には1914(大正3)年の大噴火から100年を迎えます。県立博物館では、6月から特別企画展「桜島火山100年の軌跡」を開催したところ、県内外から多くの来館者があり、桜島の生い立ちや動植物、人と火山との関わり等について理解を深めていただいたと考えています。また、企画展に関連するイベントとして、当館が保管・所蔵する桜島大正3年噴火の記録写



「桜島火山100年の軌跡」ミュージアムトーク

真を公開する特別展示「桜島大正大噴火写真展」や科学教室「桜島の歴史を学ぶ」(6月)、「桜島版!磨いて作る宝の石」(9月)を実施し、桜島について親子で学ぶ機会等を提供してまいりました。

当館では、さらに今後、大噴火100年の来年1月12日に向けて、火山や植物を中心とした桜島の自然を現地で観察する科学教室「桜島まるごと再発見!」や中高生ボランティアによる桜島プロジェクトを計画しています。

また、当館の学芸員が学校等で桜島の自然や防災について紹介する授業「できるよ!博物館で」を御要望に応じて実施できますので、気軽に博物館までお問い合わせください。今後とも、広報誌やHP等で発信される当館のイベント情報にも是非ご注目ください。



科学教室「桜島の歴史を学ぶ」(6月)

ボランティアの会

当館にはボランティア組織として「中高生ボランティアの会」があります。ここでは、中学生・高校生が城山清掃や楽しい実験・天文工作・科学教室等の手伝い、企画展のポスター作成など、さまざまな活動を行っています。参加した中・高生は、鹿児島県の自然に触れることで郷土を理解し、更に地域に貢献する喜びを感じているようです。

当館は、本年度から新たに一般県民向け「鹿児島県立博物館ボランティアの会」を立ち上げました。このボランティア活動は、「自ら学ぶ」という生涯学習の観点を重視している点が特長であり、ご応募いただいた8人のボランティアの方々には、巻頭で記した活動内容の中からご希望の活動を自ら工夫して行っていただいております。この活動を通して、ボラ

ンティアの方々には鹿児島県の自然について深く理解していただき、県民の方々にその魅力を広く紹介していただきたいと考えております。そのために必要な知識・技能向上を目指して、当館では学芸主事の指導によるスキルアップ研修も積極的に行っています。現在のところ、この研修への出席率も高く、参加者の意欲の高さを伺い知ることができます。

他の博物館からも注目されているこのボランティアの会、この活動をすることによって参加者の持つ「ボランティアの心」を充実させていただくことはもちろんですが、「自ら学び、自らのスキルアップを目指す」という活動になるよう、より一層力を入れていきたいと考えております。これからもご支援いただきますようお願い申し上げます。